

令和3年度 事務事業評価シート（1）

〔令和2年度事務事業〕

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	障害福祉啓発事業			事業番号	011-121
担当部署名	健康福祉	局	障害福祉	部	障害施策推進課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(5) 障害者が生きがいを持って心豊かに暮らせる社会の実現
			有	取組の方向性	③障害者の社会参加の促進		
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		
	堺市SDGs 未来都市計画		無	現状値	—	目標値	—
		施策との関連	有・無	ゴール	ゴール(10)人や国の不平等をなくそう	ターゲット	10.2
			有	取組	障害者児及びその家族に対する支援		
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		
			無	現状値	—	目標値	—

2	関連計画	第4次堺市障害者長期計画、第5期堺市障害福祉計画・第1期堺市障害児福祉計画		
3	事業開始年度	平成 3 年度	点検年度	令和 7 年度
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	障害者基本法		

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	市民（826,447人）
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	障害者に対する市民の関心や理解を促進するとともに、障害者の社会参加意識の醸成を図る。
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など	1. 大阪ふれあいキャンペーン実行委員会 大阪府・大阪市・堺市を含む府下の市町村及び障害者団体・地域福祉団体で構成する大阪ふれあいキャンペーン実行委員会に事務局市として参画し、ポスター等啓発物の作成や配布を行う。また、援助や配慮を必要としている方が周囲の方に知らせるためのヘルプマークについて、周知・啓発活動を行い、必要な市民に対しヘルプマークを配付する。 2. 障害者週間関連事業 障害者週間の周知を図ることを目的に、市内の4駅前でリーフレット等の配布を行う。 また、健康福祉プラザにおいて障害者週間啓発イベント「障害者週間フェスティバル」を開催。 3. 心の輪を広げる障害者理解促進事業 将来を担う若者への啓発・広報活動の一環として、障害や障害者への理解や関心を促進するため、「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」を募集し、作品集の小中学校等への配布や駅構内でポスターを掲示することにより、障害者への理解促進を図る。
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載	
9	主な支出先（委託・補助金・負担金等）	大阪ふれあいキャンペーン実行委員会
10	公民連携・協働事業	

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標	点検年度
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和7年度	
ヘルプマーク配付数	個	目標値	1,750	2,250	1,400		1,400
		実績値	2,222	1,411			
		達成率	127%	63%			
当該指標を選定した理由	ヘルプマークの配付数増加は社会の障害理解を促し、障害者の社会参加を促進させるため。						
目標値の設定根拠・算出方法	目標値は大阪府からの割当数。実績値は障害施策推進課、各区役所地域福祉課及び保健センターにおける配付数合計。						

活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標		
			令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	心の輪を広げる障害者理解促進事業 にかかる作文、ポスターの応募者数	人	目標値	30	30	30	
			実績値	28	13		
達成率			93%	43%			
当該指標を選定した理由	作文とポスターの応募数増加は社会の障害理解を促し、障害者の社会参加を促進させるため。						
目標値の設定根拠・算出方法	目標値は前年度実績をもとに設定するが、最小値は、過去5年間の平均値である30人とする。						

令和3年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	障害福祉啓発事業	事業番号	011-121
-------	----------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト						(単位：千円)
	項 目	平成30年度	令和元年度	令和2年度		令和3年度
		決算	決算	予算	決算	予算
	事業費 (a)	280	236	237	197	277
13 財 源 内 訳	国支出金					
	府支出金					
	市債					
	その他 ()					
	受益者負担金(使用料、手数料等)					
	一般財源	280	236	237	197	277
14	人件費 (b)	820	810	820	820	820
15	年間経費(c)=(a)+(b)	1,100	1,046	1,057	1,017	1,097

事業費の内訳									(単位：千円)
		項 目		年度		事業費	うち 一般財源		
16 事 業 費 内 訳		その他報償費		R2	決算	32	32		
				R3	予算	58	58		
		普通旅費		R2	決算	0	0		
				R3	予算	3	3		
		印刷製本費		R2	決算	34	34		
				R3	予算	35	35		
		大阪ふれあいキャンペーン負担金		R2	決算	131	131		
				R3	予算	131	131		
		消耗品費		R2	決算	0	0		
				R3	予算	50	50		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費					
17	①	ヘルプマーク配付数	個	令和元年度	令和2年度
	②	上記①にかかる年間経費	千円	810	820
	③	単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	365	581
	備考 (算出についての説明等) ヘルプマークは大阪府から無償で配布されるものであるため、人件費のみ積算				

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見	
18	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大阪府から供給されるヘルプマークの数が減少、そのため市民への配付数も減少し、単位当たり経費が増加した。障害のある方が、外出先で困ったときや緊急時・災害時などに、自分の情報を周囲に伝え、周囲の人に適切な支援を求めるため、本市独自に作成した「ヘルプカード」を、市本庁・区役所窓口等で配布しており、必要とする市民に配付することができた。
KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）	
19	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったイベント等も多かったが、「心の輪を広げる障害者理解促進事業」や、感染症対策を行い、例年とは異なる形（同時間帯・同一場所での開催自粛、日程の拡大等）で、健康福祉プラザにおいて「障害者週間フェスティバル」を開催することで、市民の障害者理解を深めることができた。 市民の障害者理解を深めることは、障害者の社会参加を促進することにつながるため、堺市基本計画2025及びSDGs未来都市計画に掲げる取組の方向性に対して寄与した。